

# 念仏の声

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部  
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353  
<http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/> E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2019(令和元年)6月1日発行 vol.242



平成元年に岐阜別院に植えられた前門様お手植えの木

特集

## 別院大法要で振り返る30年 ④

「私たちのちかい」についてのご親教 ③

子どもたちを育むために〈学習支援活動〉 ⑥

・如燈風中／宗祖ご命日朝粥会 ② ・法話「池に鯉」 ⑦ ・祝優勝！全国寺族青年野球大会 ⑧

# 如燈風中



岐阜教区教務所長  
御同朋の社会をめざす運動  
岐阜教区委員会委員長

泉井敬文

平成31年4月1日付けにて、岐阜教区教務所長、並びに本願寺岐阜別院輪番、本願寺笠松別院輪番、及び本願寺池野教堂主管を拝命いたしました泉井敬文(いずいきょうもん)と申します。

何卒宜しくお願い申し上げます。  
前職は、宗務所僧侶養成部、勤式担当勤式指導所主任の職に従事いたしました。

着任より今日に至るまで、多くの方々とお会いする機会に恵まれ、励ましの言葉を頂戴いたしておりますことは、誠に有難く心強い限りでございます。改めまして御礼申し上げます。

前任の高原教務所長には、教区・別院を始め、多岐にわたりご尽力いたしておりますこと、誠に尊敬の念に絶えません。

私といたしましたもより一層、お念仏の聲が響き渡る教区、別院を目指して邁進していく覚悟でございます。

ただ、何分にも浅学菲才の未熟者で、皆様方のご指導、ご鞭撻をいただかなければ、進むべき方向性を見失いがちな若輩者でございます。

先にも申しましたが、お念仏の聲が響き渡る教区、別院のために、何卒ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

宗門では2015(平成27)年度より始動いたしました「宗門総合振興計画」も2018年より第2期に入り、3つの基本方針「Ⅰ. 仏教の精神に基づく社会への貢献、Ⅱ. 自他共に心豊かに生きる生活の実践、Ⅲ. 宗門の基盤づくり」に従い検討されてまいりました各推進事項も、いよいよ実行に移す段階に入りました。

「Ⅱ. 自他共に心豊かに生きる生活の実践」の重点項目5「お寺とご縁のない方々と共に集える開かれたお寺づくり」に関して、ご門主様は「私たちのちかい」についてのご親教で、「特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会で唱和していただきたいと思っております。」と「私たちのちかい」をお示しくださり、同ご親教の「先人の

方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。」は、重点項目3「僧侶の自分の本分の励行」の推進事項「僧侶は、仏の大悲心を学び、教化を自らの使命と自覚し、自信教人信の実践を徹底する」と、重点項目4「念仏者の生活実践」の推進項目「門信徒は、弥陀の本願を仰ぎ智慧と慈悲のおはたらきの中で御恩報謝の日暮しと次世代へのお念仏を相続する」のことをお示しいただいたお言葉と私は受け取らせていただいております。

現在まで寺院、教区、宗門のためにご尽力いただき支えてくださった方々へは、これからも共々に聴聞させていただき、より一層ご縁が深まるよう努めることは勿論のこと、お寺や僧侶が選ばれていく時代となった現在、いかにして浄土真宗のみ教えとお念仏の声を、今を生きる人々へ、そして次代を担う子や孫へ繋げていくことができるか。皆様方と共に考え、行動を起こしてまいりたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます、就任の挨拶に代えさせていただきます。



## 朝粥会 はじめました

本願寺岐阜別院では、毎月親鸞聖人の御命日である16日に朝粥会を開催しております。午前7時のお晨朝(朝のおつとめ)に引き続き朝粥を参拝者共々に頂いております。当初は、ご門徒さんが中心に参加をなされておりましたが今では教区内御寺院の方や、今までの参加者の呼びかけにより回数を重ねることに参拝者は増えております。朝粥会のお手伝いをいただいている仏教婦人会の方にお話を聞いてみますと「朝粥会を試みて1年になりましたが毎月少しずつ参拝者が増えています。また、手作りのお漬物を参拝者が持ち寄って朝粥に添えています。好評です。そして、16日が土日の場合は小さいお子様も参加しています。」ということでした。また、参拝者の方にもお話を聞いてみますと「何十年かぶりにお粥を食べて涙が出ました。おふくろが作ってくれた思い出が蘇ります。今後も続けて参加していきたいです。」との声が聞こえてきました。

参拝者には、記念としておさじをお渡しさせていただいております。是非本願寺岐阜別院のお晨朝と共に、朝粥会にご参加下さい。

2018(平成30)年11月22日、23日に「秋の法要」(全国門徒総追悼法要)が本願寺・阿弥陀堂に於いて営まれました。

23日の10時30分からの法要に引き続いて専如御門主様より「御親教」を賜りました。その中で、若者をはじめとした方々を対象として、「念仏者の生き方」のお心を体して四ヶ条にまとめられたご親教「私たちのちかい」を發布されました。



## 「私たちのちかい」についての親教

私は伝灯奉告法要の初日に「念仏者の生き方」と題して、大智大悲からなる阿弥陀如来のお心をいただいた私たちが、この現実社会でどのように生きていくのかということについて、詳しく述べさせていただきました。このたび「念仏者の生き方」を皆様により親しみ、理解していただきたいという思いから、その肝要を「私たちのちかい」として次の四ヶ条にまとめました。

### 私たちのちかい

- 一、自分の殻からに閉じこもることなく  
穏やかな顔と優しい言葉を大切にします  
微笑み語りかける仏さまのように
- 一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず  
しなやかな心と振る舞いを心がけます  
心安らかな仏さまのように
- 一、自分だけを大事にすることなく  
人と喜びや悲しみを分かち合います  
慈悲じひに満ちみちた仏さまのように
- 一、生かされていることに気づき  
日々ひびに精一杯せいいつぱいつとめます  
人びとの救いに尽くす仏さまのように

この「私たちのちかい」は、特に若い人の宗教離れが盛んに言われております今日、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗のみ教えにあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会機会で唱和していただきたいと思っております。そして、先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗のみ教えを、これからも広く伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩んでまいりましょう。

二〇一八(平成三十)年十一月二十三日

浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

# 振り返る30年

元号が改まり、30年余り続いた平成の時代が幕を閉じました。かえりみると、この時代に岐阜別院では三度の大法要が営まれました。

## 准如上人三五〇回忌法要

ちょうど30年前の1989(平成元)年4月22・23日、当時の即如ご門主ご親修のもと営まれたのが「開基准如上人三五〇回忌・庫裏落慶奉告法要」です。二日間三座の法要には教区内の僧侶・門信徒ら延べ4,000人が参拝し、約1,000人の稚児行列が行われました。

岐阜別院は1603(慶長8)年、第12代准如上人によって創建されました。上人は第11代頭如上人の三男としてご誕生され、17歳で法統継承の後、地方別院の体制を固められました。岐阜別院の伽藍は1945(昭和20)年に戦災で焼失しますが、その後、僧侶・門徒が一丸となって本堂その他の施設を順次復興し、この法要に合わせて新庫裏も完成しました。

当時の『本願寺新報』(1989年5月1日号)の記事によると、「おつとめの後、ご門主はご親教で、第12代准如上人のご生涯や別院の沿革を語られるとともに、『私たちのこの難しい人生は一回きりのやり直すことのできない人生ですが、ご本願はこうした私たちのために建てられ南無阿弥陀仏となつて今日もはたらき、よびかけて下さいます。恵まれた命の尊さをかみしめつつ、本当にそのお心を味わわせていただかねばなりません』と述べられた」とのことです。



## 蓮如上人五百回遠忌法要

その8年後、今から22年前の1997(平成9)年6月6日から8日にかけて営まれたのが蓮如上人五百回遠忌法要です。この法要には教区内から約2,500人が参拝、混声四部合唱による音楽法要もありました。また期間中の記念行事には約6,000人が集まりました。

記念行事は「いのち・かぞく」をテーマにした「蓮如讃Day97」と名づけられ、多彩な催しが行われました。小学生の女の子が曾祖母に宛てた思い出のメッセージをもとに、家族が死に向かつていく生活のなかで、それぞれが死をどのように見つめていくかを共に考えるトークサロンや、「いのちをみつめて」と題したシンポジウムが開かれ、参加者からは、高齢者介護の問題や、み教えに出あえた喜びを子や孫にどう伝えていくかなどのお話が出ました。

マリンバ・アンサンブルの「家族で楽しむ音楽会」では、法要のイメージソング「故郷の人」(五木ひろし)を参加者が一緒に歌いました。他にも蓮如上人の法物展、造形・書道・絵画作品展、人権・パネル展。境内ではミニ動物園、ファミリーケット、大道芸、人形劇などが催され、家族連れが詰めかけて終日賑わいました。

また関連事業として、教区内の寺院が所蔵する蓮如上人関係の法宝物の調査がいつせいに行われ、調査結果をまとめた記念誌『蓮如上人と濃飛の門徒』が刊行されました。

# 別院大法要で



## 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

そして3年前の2016(平成28)年5月28・29日に営まれたのが「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要並びに本堂修復・香光殿新築落成慶讃法要」です。2014(平成26)年に法統継承された第25代専如ご門主が初めて岐阜別院でご親修された法要です。二日間約2,000人が参拝、およそ850人の稚児行列がありました。また380人が帰敬式(おかみそり)を受け、法名をいただきました。

法要のテーマは「さあいこう お寺」。この法要を機縁として、私たち一人ひとりが一度でも多くお寺に足を運び、仏さまのみ教えを聴聞させて頂くご縁を結んでいきたいという思いが込められました。

専如ご門主は「法統継承式」のお言葉の中で、「今日の社会状況において、今までと同じように教えを次世代へと伝えることが困難になっています。また、仏教や浄土真宗の教え、親鸞聖人に対する関心はあっても、お寺とのご縁がない方も多くおられます。多くの方に「お寺へお参りいただけるような取り組み、教えを伝えていく工夫が必要です。それぞれの地域の実情に合わせて、各寺院、僧侶、寺族、門信徒一人一人の活動が重要になります」と述べられました。先輩方が重ねてきた努力と工夫に学びながら、これからの時代に、私たちがみ教えをどのように伝えていくのが問われています。



# 「学びサポートさなぎの杜」を訪れて

今、宗門では「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）の重点プロジェクトの実践目標を「貧困の克服に向けて～Dana for World Peace～」子どもたちを育むために」と定め、各教区・組・寺院でさまざまな取り組みをおこなっています。その一つとして、西濃北組の方々が、子どもの学習支援教室「学びサポートさなぎの杜」の活動を手伝っておられます。4月3日、揖斐郡大野町の中央公民館を訪れて活動を取材させていただきました。

「さなぎの杜」代表の宇佐美美弥子さんは、「当初は、主婦の方々を主要メンバーとして設立され、声を掛けて徐々に先生役を引き受けてくださる方も増えましたが、まだ人手が足りないのが現状です」「家庭の環境に関わらず、子どもたちが平等に勉強できる環境を作っていきたいです」と話されました。

学習を終えた子どもたちに感想を聞いてみると、「楽しかった」「自分が苦手だった科目も、自ら取り組みようになっただ」「苦手が克服できた」との声が聞かれました。

取材当日、「さなぎの杜」の講師としてお手伝いされていた正願寺住職 野村泰之さんにお話を伺いました。

**Q** どのようなきっかけで支援活動を始められましたか？

**A** 西濃北組の平成29年度の福祉研修会で「学びサポートさなぎの杜」代表の宇佐美氏を講師として招聘した折り、その活動が紹介されました。そのなかで、学習の指導講師が不足していることを知り、その年の秋から、毎週水曜日の夕方7時30分～9時の間、主に数学と理科の指導をお手伝いするようになりました。

**Q** 支援活動をして感じたことを教えてください。

**A** 見かけは分かりませんが、母親がかけ持ちで4つもアルバイトをされており、食事も欠けることもあるような子がいることを知り驚きました。

また、閉鎖的な性格の子もおり、その子は何を思っているかわかりにくいために、接触の仕方が難しいことがあります。

**Q** 子供と接する時に気を付けていることや、大切にしていることはありますか？

**A** 子供達には、学年の差や能力の違いもあるので、その子にあったように、分かりやすく説明指導するように努めています。一方、私

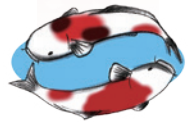
と子供達とは年齢差が大きいせいか、質問等も若干遠慮がちになるように感じられるため、彼らとの距離感を縮めたいと思案しています。また時々ではありますが、冒頭の時間に個別指導とは別に、子供達の考え方の参考なればと思いい、仏教や倫理的な話もするようにしています。

**Q** 今後の展望などあれば教えてください。

**A** 仏の教えをご門徒に伝える際、仏教の大切さを理解してもらうことが難しい。これと同じように、子供達にこの場が遊びや時間つぶしの場ではなく、学びのための貴重な時間や空間だと感じてもらいたいと思う。少しでも、彼らの心の中にこの時間や空間の比重が増やせば良いと思っています。



# 池に鯉



床の間には、どんなお軸がかかっていますか？

「ご法事の際、当家の男性が、床の間の『鯉』の絵を指さして、お坊さんに、

「ええでしよ」と、笑顔で言いました。

「はあ？鯉の絵ですね。」お坊さん、まだピンと来ていません

「そうや、池に鯉や。観経(かんきやう)観無量寿経(くわんむりやうじゆきやう)や」

「池に鯉、イケにコイ、ああつ！ホントや、行

けに来い、いいですね。」  
そうして、二人して、笑顔になりました。

「池に鯉」↓「イケにコイ」↓「行けに来い」↓  
「発遣と召喚」

掛詞になっていたので。

『観無量寿経』の注釈・解説をなされた善導大師の『観経疏』『散善義』に示された、「二河白道」のお話がございます。

人が、西に向かう途中、忽然と二つの河にで  
あいます。南には火の河。北には水の河。その  
幅はおのおの百歩程で底がなく、南にも北にも  
キリがありません。火と水の河の間には人ひと  
りが通ることが出来るかどうかの白道。後ろ  
からは、群賊・悪獣が殺そうと迫ってきます。  
前に進んでも、後ろに下がっても、そのまま  
止まっても死を免れない状況の中で、いざ

白道を渡ろうとする、その時。

東の岸にたちまちに人の勸むる声を聞く、  
「きみただ決定してこの道を探ねて行け。

かならず死の難なけん。もし住まらばす  
なわち死せん」と

の、お釈迦様の「イケ、信じて進め」の発遣。励

ましの言葉です。そして、  
西の岸の上に、人ありて喚ばひていはく、

「なんじ一心に正念にしてただちに來れ、  
われよくなんじを護らん。すべて水火の

難に墮せんことを畏れざれ」と

の、阿弥陀様の「コイ、まかせよ、必ず護る」の  
召喚の声。

そのよびかけに従うことで、白道を渡りきり、  
難をのがれ善き友と遇うことができた、という  
「信心を守護して、もつて外邪異見の難を防が  
ん。」が為の喩え話であります。

我々の先輩方は、生活の中に上手に、お念仏  
がよろこべるように、織り込んでくださったん  
だなあと感じる時、うれしく思います。また少  
し力をいただきます。

『観無量寿経』は、インドで起こったある王家  
の家庭内悲劇のもと説かれています。

殺された王の妃であり、殺した王子の母親で  
ある韋提希夫人がすぐわれていくお話。

出家者やすぐれた修行者ではなく、在家の女  
性がすぐわれていくお話です。それは、一番弱  
い立場の人間、凡夫、ただびとが、すぐわれて

いくことを示してくださいませ。

その事を善導大師は『観経疏』をもって、くわ  
しく解説してください、凡夫が歩むことのできる  
白道、それは「南無阿弥陀仏」と届いたひとすじの  
道を歩めと、すすめ励ましてくださったっています。

「池に鯉」、「行け」とすすめてくださるお釈迦  
様の巧みなお育てと、「来い」と喚んでくださる  
阿弥陀様とお出遇い、その慈悲に、さらに  
心丈夫になるご縁でありました。



本願寺派布教使  
岐厚組法光寺  
宇野淳信

合掌

※無料画像集より転載

# 第42回 全国寺族青年軟式野球大会 **優勝!!**

## 岐阜教区 野球部 **ケンシズ**



昨年の10月4・5日の二日間、京都府宇治市のグラウンドで行われた「第42回全国寺族青年軟式野球大会」にて、岐阜教区野球部ケンシズが初の全国制覇を成し遂げました。

今回の全国大会は北は北海道教区から南は鹿児島教区まで総勢28チームの参加があり、一日目は一回戦から三回戦、二日目に準決勝と決勝戦を行いました。二日間で5試合という誰もが今まで経験した事が無い戦いでした。

岐阜教区は初日、一回戦東京教区に9対0、二回戦東海教区に5対3、三回戦富山教区に4対0で勝利。二日目の準決勝で熊本教区に4対1、決勝戦は大分教区に2対0で勝利しました。

二日間で5試合戦い抜いたメンバー、一日しか参加出来なかったメンバー、そして法務で参加出来なかったメンバー。誰か一人の力では無く、野球部全員で勝ち取った全国制覇だと自負しています。

今年「連覇」を目指して頑張ります。

今後とも岐阜教区野球部ケンシズをよろしく願います。

監督 佐々木 映順  
(岐厚組蓮生寺)

### 「子どもたちの笑顔のために募金」のお願い

宗門では、自他共に心豊かな社会をめざす取り組みの一環として「子どもたちの笑顔のために募金」を行っています。この募金は、国外では海外にある西本願寺の関係機関などと連携して、貧困に苦しむ子どもたちを支援します。また、国内では子ども食堂や学習支援などの活動、児童養護施設などで暮らす子どもたちのために活用いたします。

#### 郵便振替

口座名

「子どもたちの笑顔のために募金」

口座番号

〇〇九四〇・八・二八二七六六

※教区や組単位での払い込みの際は、教区名・組名を明記してください。領収書名を明記してください。

### お知らせ

#### 性別記載について

近年、各方面において、LGBT等の性的少数者の方々の立場を理解し尊重する観点から、申請書等の「性別記載欄」を見直す取り組みが行われています。

岐阜教区教務所においても、教務所(別院)が書式を作成する申請書や申込書に性別欄を設ける場合は、その記載を男女の選択方式ではなく記

入方式にしていきます。

(例)

「男・女」 ↓ 「性別」

#### 岐阜別院第69回「黎明講座」

期日 8月1日(木)～3日(土)  
時間 午前7時～8時30分  
場所 本願寺岐阜別院 本堂

#### 講師

1日 岐阜新聞社最高顧問 杉山幹夫 師  
2日 龍谷大学教授 葛野洋明 師  
3日 本願寺岐阜別院輪番 泉井敬文 師

#### 岐阜教区「僧侶研修会」

期日 8月1日(木)～2日(金)  
場所 本願寺岐阜別院  
講師 香光殿 研修室 調整中

#### 『令和元年 西別院盆おどり』

期日 8月29日(木)  
雨天8月30日(金)  
時間 午後6時～9時  
場所 本願寺岐阜別院 境内  
出演 郡上おどり 新正春駒会/他  
※屋台出店、お楽しみ大抽選会もありますので、お誘い合わせの上ご来場下さい。

#### 「西本願寺の時間」

岐阜放送AM1431KHZ  
毎週土曜日 午前6時25分～6時35分

絶賛放送中